大阪大学応用心理研究会について

⑥ ≪文学部心理学科施設紹介にかえて≫

近来心理学専攻生の需要は，ただに教育面，臨床相談面のみならず，産業界やマスコミ界からの需要もとみにいちじるしくなり，殊に産業面に進出するものが非常に多くなった．由来大阪大学文学部には哲学科に所属して心理学の講座が二つ設けられ，第1講座は一般（実験）心理学を担当し，第2講座は応用心理学を担当している．学部の専門課程では，2年間にわたり一般面にしろ応用面にしろ心理学に関する基礎知識があたえられるのであるが，各方面に活躍する卒業生は，実際問題に直面した場合，どうしても生じて来る知識の不充分さ，問題解決の困難さを痛感するのである．このような場合コンサルタント的役割を示してきたのは応用心理学担当のスタッフであったが，このようなことが重なるにつれて，実際活動に当っている連中が，夫々の職場で直面している心理学的問題点を提出し合い，それに対する解決方法を共に考え，それによって互に成長しあおうとする気運が彼らの間に盛りあがり，研究会発足への大きな契機となった．

最初は谷口裕昌（松下電器営業本部　宣伝部　計画課）西堀高男（近代経営社　編集部）服部敏信（日商株式会社　人事課）の3氏が中心となって，阪大応用心理学研究会として昭和34年10月に第1回会合を開いたが，爾来隔月1回の例会開催ということで今日までいたっている．第3回研究会位から第2講座が全面的にバックアップし，最初から会の中軸支柱であった太城助教授は勿論，橘教授，長山助手も参加し，長山，谷口両氏が研究会のマネージメントを行っている．現在では第2講座所属の学生も積極的にこの研究会に参加して，先輩諸氏の持つ心理学的問題点に触れることによって，大いに教育的効果をあげているといってよい．

例会は隔月の第2火曜日と定められているが，会員の勤務先が殆んど大阪市内であること，勤務時間終了後開催というわけで，毎回頭痛の種になっているのは適切な研究会場がみつけられないということである．会員各位は全く自発的に参加しているので，勤務先からの援助は期待できない．夕食をしながらしかも安い会場をということで幹事の苦労は一通りではない．われわれが常に念願することは，会合に便利な地点に阪大のクラブがあって，しかも安価に利用できればということである．話はそれたが，現在までの研究会の各回のテーマと発題者をあげてみよう．

第3回　昭和35年2月18日
教育相談について　向畑タメノ　布施市教育研究所

第4回　昭和35年4月14日
適性検査について　一山幸代（大阪府能率研究所）

第5回　昭和35年6月21日
コマーシャルフイルムについて　井東準太（電通）

第6回　昭和35年9月6日
渡独される長山氏を囲んで

第7回　昭和35年9月16日
個体発達と社会問題の関係
—乳児院・保育園での事例から—
忠津玉枝（大阪社会事業短大）

第8回　昭和36年1月25日
わが社の教育と人事調査
服部敏信（日商株式会社）

第9回　昭和36年3月28日
職務調査について　網野光勇（住友電工）

第10回　昭和36年5月30日
既卒業生と新卒業生との交換会

第11回　昭和36年7月18日
ウソ発見におけるポリグラフ法
多田敏行（大阪府警）

第12回　昭和36年10月3日
児童相談所における心理学の役割
角本順次（大阪市立児童相談所）

第13回　昭和36年11月4日
独逸より帰りて—ドイツ心理学の現状
長山泰久（大阪大学）

第14回　昭和36年12月19日
現代サラリーマンの人生観
—心理学的見地より—　小郷利雄（積水化学）

第15回　昭和37年2月13日
精神衛生活動の必要性と現状について
小花和昭介（大阪府立公衆衛生研究所）

第16回　昭和37年4月17日

精神薄弱児の知能構造について

向畑タメノ（布施市教育研究所）

第17回　昭和37年6月12日

営業企画における心理学的問題点

打田賢次（大阪屋証券）

第18回　昭和37年8月21日

営業企画における心理学者の役割

山下泰英（伊藤喜K.K）

第19回　昭和37年10月16日

交通心理学の問題点　　長山泰久（大阪大学）

第20回　昭和37年12月11日

従業員の賃金に対する要求充足について

—賃金観調査結果の分析を通して—

井田元史（大阪大学）

以上のテーマをみてもわかるように一口に応用心理学といっても全く多方面にわたっているのであり，専門分野に入っている人にとって，全然異った分野の話題には関心がもてないものなのである．大きく現在迄の分野を3つに分けると，教育・臨床相談関係，人事・企業内教育訓練関係，宣伝・営業企画関係になるが，夫々のもっている問題意識は異なり，適用される方法も異なるのであるが，それをこの研究会で如何に折り合せていくかということが今後の大きな課題である．換言すれば，研究会発足当時の大きな目的であったそれぞれの持場での問題の解決ということを前面にとり出せば，非常に限られた少数の者のみしか参加できず，かといって一般共通の話題ということではおたがいの切磋琢磨という意義をうしない，所期の目的が達成せられないという二律背反の窮地に立たされているのが，この研究会の現状である．最近この矛盾に当面してメンバーの中から批判の声がたかまるとともに，かかる研究会の意義がもっと真剣に検討せられ新たなよそおいをもって前進すべき努力が課せられてきているのである．